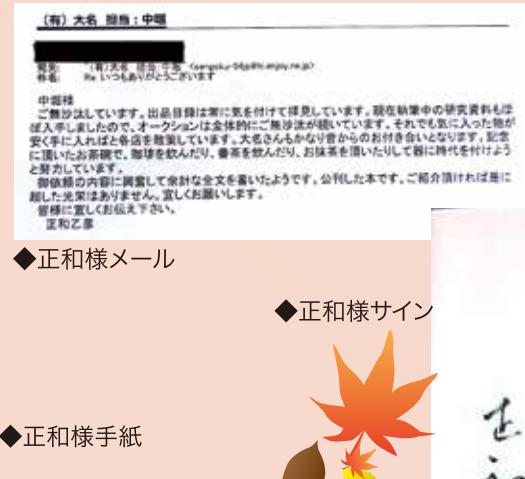
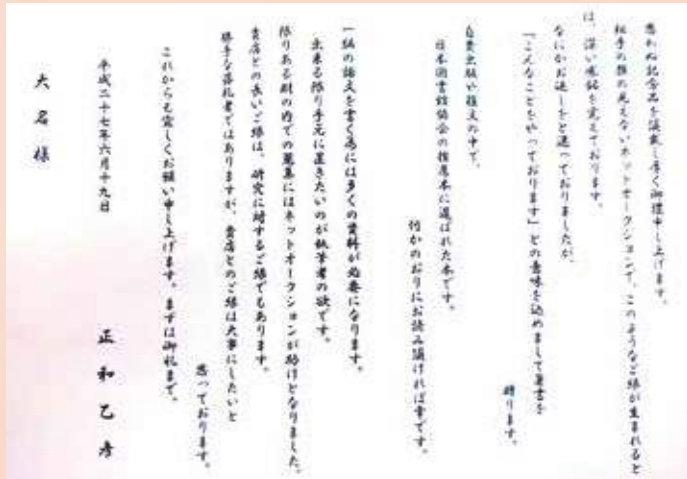


お客様のコメント

感謝カードを集めて、大名オリジナル茶碗※に応募して頂いた正和様から、嬉しいお手紙と自著を頂きましたので紹介させていただきます。
 (※オリジナル茶碗とは、陶芸体験でも紹介させて頂いている金野先生作のお茶碗のことです。世界でたった一つの自分の名前が入ったオリジナル茶碗です。)



正和様とは長い付き合いで4年前からオークションに遊びに来ていただいています。とても親切で、丁寧な返信、私はいつもメールを楽しみにしています。今回のお手紙と本が嬉しくて、紹介させて頂きと連絡したところ快く引き受けてくださいました。オリジナル茶碗が正和様の日常の一つになれたことをとても嬉しく思います。正和様から贈って頂いた本、まだまだ商品に対して勉強不足な私にとってすごく貴重な物となりました。

どこから勉強したらいいのか分からず、どこかで「いつか」と思っていたのですが、この本を読ませて頂き、九谷焼の歴史をわかりやすく学べました。最初から九谷焼と呼ばれておらず、「大聖寺焼、大聖寺染付」と呼ばれていたことにびっくりしました。

文字だけではなく、写真も沢山あり九谷焼の道具の紹介、本当に勉強になりました。現在執筆中の本も楽しみにしております。こちらこそ、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



正和 久佳 (本名 乙彦)

- 1931年 富山県高岡市に生まれる
- 1975年 古九谷風安全無公害釉薬(耐酸釉)開発
- 1977年 小松市物産振興協会理事
第1回伝統九谷焼工芸展入選
- 1979年 第8回石川県デザイン展入賞
- 1982年 石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会デザイン開発委員会委員
- 1984年 第40回石川県現代美術展入選
- 1985年 石川県クラフト、デザイン協会理事
- 1987年 連合会 新商品開発委員会委員長
第50回一水会陶芸部展入選
- 現在 九谷正窯主・郷土史料研究所長・小松市立博物館専門委員
連合会古九谷研究委員会歴史部会長・一級技能士(陶磁器科)

◆正和様自著

著書『古九谷』研究批判、郷土史料研究所、平成4年
 「九谷焼＝歴代の作品でつづる九谷焼の歴史」(共同編集)、石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会、平成9年
 その他多数

著者略歴



届けますっ! 大和魂 2015年10月 Vol.8

—経営理念—

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

- ### —目次—
- 1 絵付け体験をしてみました
〜島谷(しまたに)〜
 - 2 語ります大和魂
〜中堀(なかつり)〜
 - 3 ハナエモンのタ〜イムスリップ
〜花本(はなもと)〜
 - 5 お客様のコメント
〜中堀(なかつり)〜

絵付け体験をしてみました〜

こんにちは、島谷貴子です。前回に続き、*金野(かのう)先生の所で体験させて頂きました。(※当社のオリジナル茶碗を造っていただいている先生です)今回は高台(こうだい)を削る作業と、絵付け体験をしました。高台を削る作業は、底に穴を空けてしまうと、水漏れ等がおきて使えなくなってしまうので、慎重にしないといけない作業でした。社長はいい感じに高台を造って、ご満悦でした。

※手ひねりで作ったお茶碗がこちらから始めます



1. 自分のイメージする高台の形を作る為の円状の印をつけます。
2. 厚みを確認しながら削っていきます。
3. 円の内側を削り乾燥した土のデコボコの部分を削り、滑らかにしていきます。

私は周りを滑らかにして、中だけ削る方法でしましたあ。



●取っ手もつけました

中堀さんは...底が薄すぎてすごく低い高台になっていました。花押を削ることも危険で、絵付けで印をつけていました。

先生:「この工程を、ロクロでもやってみましょう!」



今度は茶碗を、削って見ましたがすごく難しかったです。自分の造った物が平行に出来ていないので固定していても「ぐわん、ぐわん」と回って固定の台から外れそうになりました。底に穴を空けてはいけないと思うと、回転をゆっくりしすぎて割れないという悪循環...優しいお言葉で気持ちも落ち着き、時間はかかりましたが上手くできました。本当に丁寧に優しく教えて頂き、今回も楽しくすることができました。あとは焼き上がりを待つだけです。金野先生、ありがとうございました。



島谷:「ああ〜先生できません...」
先生:「大丈夫ですよ、できますから、ゆっくりでいいですよ」

体験後のコメント

花本
「今までここまでの作業をしたことがなかったけれど高台を削る、絵付けをするっていう所までできたのがよかった。本当に自分で最後まで作ったんじゃないかって実感がわいたわあ。難しかったけど、高台を削るのが一番楽しかった。」

中堀
「絵付けが最高に楽しかったです。絵を書くのが自分の感覚がとてよくて柔らかく、自分の手でどんな形にも出来ていくところがよかったです。あとは、休憩の際に出して頂いた、甘いお茶です(笑)」

島谷
「私は、手ひねりから手回しロクロを使って造るのが楽しかったです。土の感触がとてよくて柔らかく、自分の手でどんな形にも出来ていくところがよかったです。あとは、休憩の際に出して頂いた、甘いお茶です(笑)」



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください お待ちしております

ホームページ <http://daimyou.com/> リニューアルしました
 有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
 TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

大和魂

語ります

この度語らせて頂きます、中堀明美(なかぼりあけみ)です。今号では、五箇伝の「山城伝」について語らせて頂きます。平安中期に京都の三条に住んでいた公家の刀工師・三条宗近(さんじょうむねちか:生没不明)を始まりとし京都を中心に広まっていきました。当時は争い事が少なく実戦用使用する刀を求められる事は、あまりありませんでした。天皇や貴族たちの要望で、細身で美しい造りが特徴の刀が多かったとされています。五箇伝の中で最も美しい造りといわれています。



備前刀と比べると細身なのがわかりますか?

室町時代頃より、特に名刀だと言われていた五振りを「天下五剣(てんかごけん)」と言いその中でも、最も美しいと言われているのが「三日月宗近(みかづきむねちか)」の太刀です。



◆三日月宗近刃

名前の由来は刃紋の一種、「打のけ(うちのけ)」が三日月に似ていることから三日月宗近と呼ばれるようになりました。細身で反りが高く2.7cmあり、元幅が広く、先幅が狭くて差が大きいことから、「踏ん張りが強い」姿をした、とても上品で美しく穏やかな作品だとされています。



鎌倉時代になり、京都の東山区北端の粟田口で、三条一派と交代するように栄えた粟田口(あわたぐち)一派は、御番鍛冶制度※により奉授工(ほうじゅこう/上皇に鍛刀の手ほどきを行う刀工)の中の一員として、師範の粟田口久国(ひさくに)が任命され粟田口一派は活躍しました。

※御番鍛冶制度…政権を奪う為、後鳥羽上皇(ごとばじょうこう:1180年~1239年)が北条家を討つ為に全国から刀鍛冶の名匠を京都へ呼び集め、月番を決めて名匠に刀を打たせていた事

しかし北条家が勝利した為、後鳥羽上皇に関わった粟田口一派は勢いをなくしていきました。この時に新しく京鍛冶の主流に育成されたのが来派(らいは)です。のちに、粟田口一派と来派は京都の二大流派といわれ、山城伝の完成系を造ったともいわれています。

粟田口派の作風は・・・

梨子肌

- 小板目詰む・梨子肌

※詰む…よく鍛えられた地鉄の鍛え肌が、特に細かいことをいう
- 小沸・出来

※小沸…匂とも沸とも判断するのが難しい小粒の沸
- 直刃・小乱れが多い

来派の作風は・・・

板目肌

- 板目詰む・地沸よくつく

※地沸…沸が刃以外の部分に付いたもの
- 直刃・直刃調の丁子乱れ

足・葉が入る

鎌倉末期頃になると京都は戦乱の中心地となり山城鍛冶は地方に分散し、衰退していきました。平安中期頃から鎌倉末期までの勢いはなくなっていきますが、それと同時に武士の気風にあった相州伝が流行し始めます。現代になり国宝や重要文化財に多く指定されているのが山城伝です。当時の刀工師達は丁寧で繊細に造り上げていたんだと思います。武器に優雅さと美しさ求めるというのは、日本人独特の感性なのかもしれませんね。それを教えてくれたのが、山城伝の刀だなど感じました。

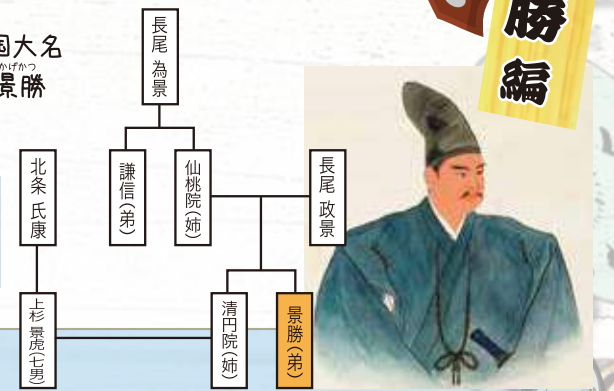
次回はなぜ相州伝は流行していったのか…?等について相州伝を語らせて頂きます。

ハナエモンのタ〜イムスリップ

上杉景勝編

今号のタ〜イムスリップは前号、前々号と東北の戦国大名が続いていますが、またまた東北の戦国大名・上杉景勝(1556—1623年)です。

義父の上杉謙信や、家老の直江兼続の名声の陰に隠れがちな武将ですが、三度も死を覚悟しながらも、生き延びた悪運の強い武将です。



最初の死の覚悟

景勝の母が戦国時代の武神・上杉謙信の姉で、甥にあたります。8歳の時に、父が急死し、謙信に実子がいなかった為、養子になります。22歳の時に、謙信が急死すると同じく養子だった上杉景虎と跡目争いになります。景虎は北条氏康の息子だったので、甲相同盟(武田家と北条家の同盟)をもとに武田勝頼が干渉してきました。武田軍と景虎に挟まれ、圧倒的に不利になり、人生一度目の死を覚悟…。「春日山城を枕に自決する覚悟は出来ている!」と手紙に書いています。先に金蔵を占拠していたので、武田家に黄金と少しの領地、更に勝頼の妹と婚約し、同盟を結びます。これで戦況は変わり、景虎を自害に追い込み、25歳の時に上杉家を継ぎます。

二度目の死の覚悟

跡目争いに勝ったのも束の間…26歳の景勝に謙信時代から争っている、天下統一間近の織田信長が立ちはだかります。家来の謀反と織田家・柴田勝家率いる4万の軍団に挟まれ、大ピンチ!更に頼みの綱の武田家も織田・徳川連合軍によって滅亡…人生二度目の死の覚悟!27歳の景勝の手紙に「自分は良い時代に産まれた。六十余州を相手に越後一国をもって戦いを挑んで対峙し、滅亡することは、死後の思い出である」

ここで悪運が発揮されます!本能寺の変が!!!またもやなんと生き延びます。織田家混乱期にいち早く、羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)に味方したことで、謙信時代に及びませんが、領地も拡大し90万石まで回復しました。43歳で秀吉の命令で徳川家への監視役として会津(福島)120万石に移動になります。

三度目の死の覚悟

天下人・秀吉がせくなると、次の天下人候補の徳川家康と対立することになります。領地内の城の補修と新しい城を築城していました。理由を説明せよと上洛命令がきますがこれを拒否したことで、会津征伐の為に家康が攻めてきます…人生三度目の死の覚悟!この時、47歳の景勝が家来達に「公儀は何を言ってもこちらが悪いとばかりに一方的、かくなる上は全国を相手に戦う覚悟だ。これに納得できない者は出ていけ!」と言ったそうです。会津に徳川軍が動いたと聞いた石田三成が東西から徳川家を挟み撃ちにしようと挙兵します。すると徳川軍は反転して、西に軍を進めて関が原の戦いへ。またも滅亡の危機を脱します!

その後、徳川家に降伏し、領地も米沢30万石に減らされてしまいます。しかし、跡目争いから武田家、信長、秀吉、家康と難しい時代を生き延びた悪運に魅力を感じる武将ですね。やらないといけない時には、勝てそうになくても戦う気概をみせた景勝。景勝を支え、共に生き延びた腹心の直江兼続が残している言葉です。「人間死ぬ気でやれば案外なんとかなる」



◆景勝(左)と兼続(右)